

## 平成 26 年度 自動車安全技術開発研究会

平成 26 年 9 月 3 日  
産業科学技術課

## 1. 目的

近年、自動車メーカーや自動車部品メーカーなどの大企業を中心に自動車安全に寄与する製品の開発・販売が行われ、市場を形成しつつあるが、それらの製品に組み込まれる部品等の製造を除き、中小企業の参入にはまだまだ至っていない。

そこで、県内大学を中心に有力な技術シーズを紹介するとともに、自動車安全に寄与する製品群の最新の動向や既に事業化に成功している企業の事例を紹介するなどにより、主に本県の中小企業に対して自動車安全に寄与する製品開発に取り組む契機を供与し、オールあいちでの研究開発の取組促進、裾野の拡大をめざす。

## 2. 事業内容

今年度は講演会を基本とした研究会を開催し、主に下記の内容を扱う。

## ①自動車安全に寄与する製品群の最新動向の紹介

- ・新たに研究開発に取り組んでいく上で、最新の動向の把握は最低限必要である。
- ・国の構想や市場の動向等を紹介する。

## ②既に事業化に成功した他県の中小企業の事例紹介

- ・中小企業が未知の分野に新規参入するには非常にハードルが高い。
- ・新規参入を促すため、既に事業化に成功した他県の中小企業の事例紹介等を通じ、新規参入のイメージを掴んでもらう。

## ③大学の技術シーズとのマッチング

- ・県内の大学研究者の技術シーズを参加企業へ紹介し、共同研究の可能性を検討する。
- ・企業の要望等を個別にヒアリングし、大学研究者とのマッチングを試みる。

## 3. 主な対象企業

- ・県内に開発・製造現場を有する企業（中小企業を中心）
- ・開発された製品を使用するユーザー企業（トラック、タクシー等の事業者）

## 4. 本研究会にてターゲットとする製品例

中小企業が独自に製品開発に取り組む余地がある分野

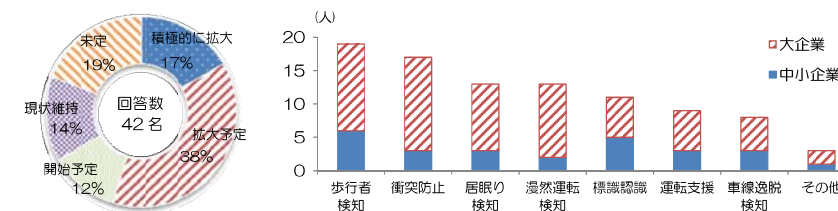
- ・後付け型車載機器（居眠りや衝突等の危険運転警告装置）
- ・高齢者をターゲットとした運転能力計測機器、訓練機器

等

## 5. 研究会開催実績

	講演内容	講演者	参加者
第1回 (7月4日)	【①動向紹介】 自動車安全技術の動向と中小企業による取組に向けて	愛知県産業労働部 産業科学技術課	29名 (中小企業16名)
	【②事例紹介】 眠くなるのが数分前にわかる技術 —入眠予兆現象の発見	(株)デルタツーリング 常務取締役 藤田悦則氏	
第2回 (8月6日)	【③技術シーズ紹介】 眼球運動による居眠り予兆検知技術と スマートフォンアプリへの実装	中部大学 教授 平田豊氏	29名 (中小企業7名)
	【③技術シーズ紹介】 画像情報処理技術の自動車事故抑止への 応用～車外環境の画像認識～	名古屋工業大学 教授 佐藤淳氏	

<アンケート結果（企業参加者のみ抜粋）>



自動車安全技術開発の取組について

検討または興味がある自動車安全技術

<その後の状況>

新たな研究開発の取組開始に向けて参加企業と個別に検討を実施

- ・新事業の候補として自動車安全技術を検討開始（中小企業ソフトウェア開発）
- ・検討中の技術（標識認識）について大学の技術シーズを紹介（中小企業車載機器開発）

## 6. 今後の予定

- ・今年度中に2回（11月頃、1月頃）開催を予定しており、歩行者検知や標識認識など中小企業が興味を示している技術を中心に、引き続き大学研究者等の技術シーズを紹介していく。
- ・さらに参加企業と個別に共同研究の可能性を検討していくが、次年度以降の取組として産産連携が図れる研究テーマや企業の発掘を目的に、参加者を限定したクローズな研究会の開催も視野に入れていく。